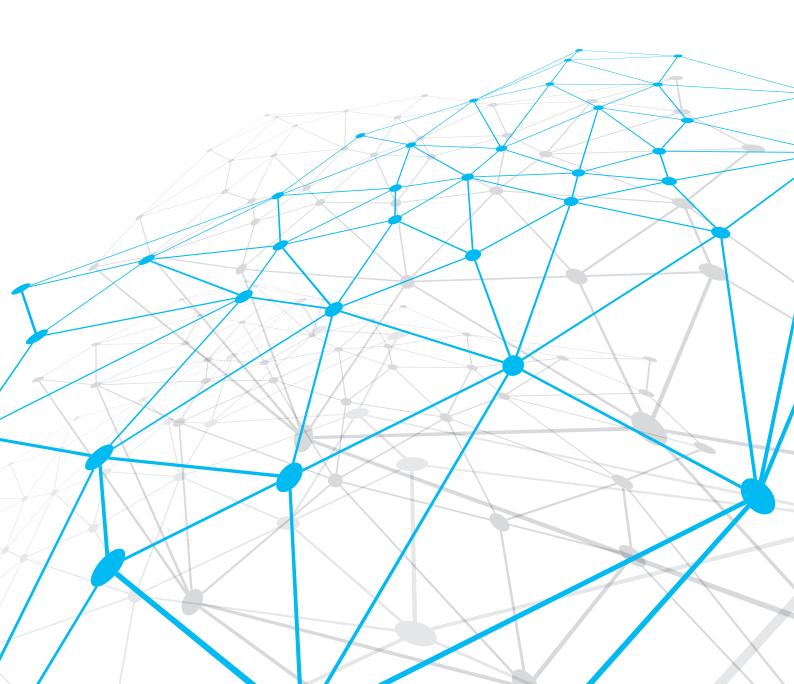
知を結集し、ITの次のカタチを見い出す。





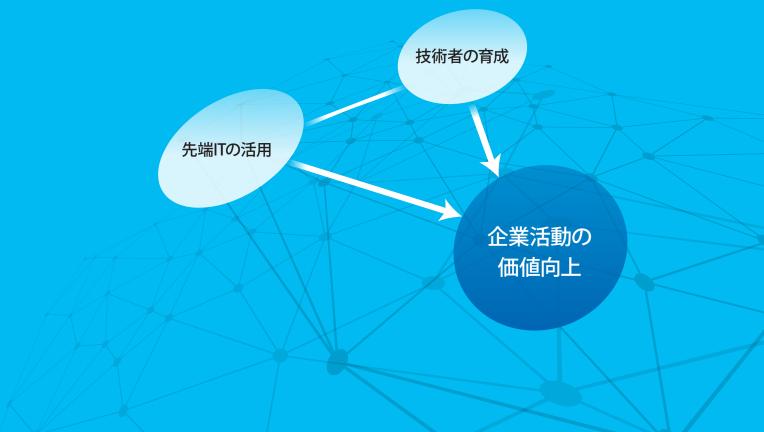
先端ITを学び、評価し、 実践へ活かす。

IT分野では、次々と目まぐるしく新しい技術が生まれ、 そのいくつかは瞬く間に進化を遂げていきます。

一方で、企業情報システムにおいては、先進性だけでなく、 安定性や機密性などが求められ、そのための研究・検証などを行うために、 先端ITの適用に時間がかかるという課題があります。

この課題を解決するために発足したのが、「先端IT活用推進コンソーシアム(AITC)」です。 先端IT分野について、複数の企業が共同で 研究・検証・実証などを行うことにより、 企業における先端ITの適用サイクルを早め、 同時に先端ITに知見の深い技術者を育成し、 もって先端IT活用による企業活動の価値向上に資することを 目的として活動します。

また、本コンソーシアムの活動によって、安定性や機密性を求める社会基盤にも 先端ITの活用が進むよう、活動の発展を目指してまいります。



5つの部会を中心に、ITの最

部会のシーズセミナー・勉強会

- ・最新情報を入手する場
- ・内外著名人による講演、交流の場
- ・特定の先端ITに関して、参考文書を読み、 試しに使ってみる場

部会のノウハウを展開

部会

スキルを身につけ、ノウハウを共有する場

ナチュラルユーザーインターフェース (NUI)活用部会

> ユーザーエクスペリエンス (UX)技術部会

ビジネスAR(BizAR)研究部会

コンテキスト・コンピューティング (CC)研究部会

クラウド・テクノロジー活用部会

セミナー・勉強会

セミナーでは、部会や勉強会のシーズとなる先端ITを取り上げ、内外著名人による講演を通じて、最新情報を入手する場を提供します。また勉強会では、早いスピードで次から次へと新技術が誕生する分野であることを意識し、特定の先端ITを短期集中(3ヶ月程度)で学習します。

部会

部会ごとに参加メンバーが活動期間と目標、そして具体的な活動内容や方法を定めて活動します。具体的には特定の先端ITについて調査をし、試用に基づき評価、アセスメントを行うことで知見を共有し、報告書の作成を目指します。参加者は定期的なミーティングやSNSの活用を通じて自己研鑚と切磋琢磨の場を持て、特定の先端ITに関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有できることはもちろん、社外の人的ネットワークを培うことができます。

AITC オープンラボ

部会の活動内容・成果を基に、「ハンズオン」「セミナー」「わいがや・オフライン」「会社見学」「他団体との交流」など、取り扱うテーマに合わせた形態でイベントを開催します。部会に参加されていない会員も部会の活動内容を知ることができ、部会活動で培った知見、ノウハウを得ることが可能です。一方で部会側は参加者の反応や要望のフィードバックを受けることで、活動の進化・深化に役立てることができます。

協働プロジェクト

特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動しています。実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言などを受けられる利点があります。先端ITの活用例を提示し、活用推進の一翼を担う活動です。

発表会・シンポジウム

部会や協働プロジェクトでの活動内容、成果を基に、会員内や外部に対しての発表を行っています。AITC単独で開催する場、他の団体と共催する場、または他の団体が主催する場での発表を通して、部会や協働プロジェクトで培ったスキルやノウハウ、知見を社会に還元し、先端IT活用推進の実現を目指しています。

先端を追究する。



部会で得た知見を伝播する場 参加者の反応や要望を 部会へフィードバックする場

月1回程度の開催でスキルと知見の伝播

部会へフィードバック

協働プロジェクト

部会間/外部団体との連携で研究を行う場

部会横断・外部 との連携

部会・プロジェクトの 成果を発信

発表会・シンポジウム 実活動に基づく情報と知見を共有する場

5部会概要

それぞれが明確な目的を持ち、精力的に活動を行っています。

クラウド・テクノロジー活用部会

■活動目的

幅広い情報収集を行い、調査結果を情報共有するとともに、実際にプロトタイプを試作することで、活用するヒントや具体的なイメージを得るための活動を行います。

■活動内容

広範囲の各要素技術に対し、単に「知っている」 だけでなく、部会参加者全員が「使ったことがある」、 さらに「人に教えることができる」と言えるレベル を目指していきます。

- 測定(センシング)
- ●収集(ネットワーク)
- ●蓄積(KVS,クラウドサービスの利用)
- 分析(統計処理、オープンデータの利用)
- ●出力(ビジュアライゼーション、プッシュ通知)

コンテキスト・コンピューティング (CC)研究部会

■活動目的

コンテキスト・コンピューティングのビジョンとして、個人や集団が階層的に連動することで、社会全体がインテリジェンス (Social Intelligence) として機能するような情報社会像を提示し、具体的な情報基盤技術を提言します。

■活動内容

- ●コンテキスト・コンピューティングにより実現するビジョン「人と機械(コンピュータ)の協働による"情報の個人化""社会知の形成"」の検討
- ●2020年のITシステムにおけるSocial Intelligenceの 姿と実現方法の構想
- ■基盤となるプラットフォームの作成、社会・ビジネス における応用例の提案

ビジネスAR(BizAR)研究部会

■活動目的

最先端のAR技術の把握と習得およびビジネス推進力のあるAR適用方法・実装方法について研究することを活動目的とします。さらに活動成果を発信していきます。

■活動内容

- ●ビジネスARを創出、普及・展開するための考察・議 論・グループ活動
- ●AR技術への理解を深めるためのプロトタイプ開発・試 行実験
- ●上記活動を成果物としてまとめ、外部発信の活性化

ユーザーエクスペリエンス(UX) 技術部会

■活動目的

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践を通して、利用者に、より良い体験を提供するITシステムとは何かを探究します。UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、ITのUX向上に貢献していきます。

■活動内容

- ●UXデザイン/サービスデザインプロセス
- ●UXデザイン/サービスデザインプロセスで活用できる ツールや手法の研究と実践
- ●UXに優れたアプリケーションやITシステムの事例研 空
- ●近未来UXの検討

ナチュラルユーザーインターフェース (NUI)活用部会

■活動目的

最新技術やデバイスの紹介などを行うとともに、NUIの特性をより引き出しより身近に使えるものとなるようなプロトタイプ開発を目指し、調査・研究を行います。その活動を通じ、直感的で誰もが使いやすいインターフェースとは何かを探究し、ビジネスやサービスにおける様々なアプリケーションの利便性の向上に貢献していきます。

■活動内容

- ■NUIデバイスの技術仕様や導入事例の調査
- より優れたインターフェースの在り方やユーザーエクスペリエンスの向上についての検討
- ●より直感的でより身近に使えるアプリケーションの開発

協働プロジェクト

■活動テーマ

2012年~2014年に実施した「Project LA(知識から行動へ)」に続き、今回は「空気を読む」をテーマに活動します。近未来(10年後~20年後)に実現するであろう『空気を読む家(仮)』の中で、人がどのように快適な生活をおくることができるのかというユーザ体験をデザインし、『空気を読む家』における、人とモノ・環境・社会とのスマートな関わりをAITCの各部会が取り組んでいるコンテキストコンピューティング、AR技術、ナチュラルユーザーインタフェース技術、クラウド技術を駆使して、実証実験システムの構築を行います。

次のIT、ともに目指しませんか?

本コンソーシアムの趣旨に賛同し、部会活動などに参加、ご協力いただける会員を募集しています。

参加者のメリット

業種や企業の枠を超えた人的ネットワークを構築できます。また各界エキスパートの講演に触れ、自身も発表の機会を持つことで、知識に加えプレゼンテーション能力の向上が期待できます。

参加企業のメリット

先端ITに明るい技術者を先行して育成できます。さらに自社戦略や製品の普及マーケティングの場、普及啓発の場として利用することが可能です。

さらに、特典

- ・本会が主催するセミナー、勉強会、部会、発表会に、人数の制限なく無料で参加。
- ・会員限定の報告書や事例集なども閲覧可能に。

参加者の声

最大の特長は、積極的に活動しているIT技術者と長期間にわたり交流でき、知識、技術を伝播しあい相互にレベルアップできることです。メンバーの幅が広く、実務経験豊かな方、最新技術に強い方、さらに行政関係の方などが参加しており、さまざまな視点が得られます。ビジネス制約の少ない環境で納得がいくまで探求していくという経験は技術者として大切なものだと感じます。(会員会社 技術職 Aさん)

教養セミナー的な活動に終わらず、目的が明確にあり最新技術を駆使できる、という運営コンセプトが素晴らしいです。各方面の有識者や各社の技術者、経験豊富なITマネジメント能力を有した方々が企業間を超えて協働し、大いに力を発揮できるのは他にはあまり例がないと思います。仲間たちとのディスカッションを通じて得られる知識や技術は、かなりハイレベルなものであり、会社内の議論だけでは絶対に到達できないものでしょう。

(会員会社 経営者 Bさん)

会費

法人および個人事業主 10万円個人会員 1万円学術会員 3千円

問い合わせ staff@aitc.jp (AITC事務局)

入会申し込み

http://aitc.jp/join/form.php